

八文字の勇気

山口県山口市立平川中学校 3年 永山 結愛



「ダメだよ。やめよう。」私は、もし友達が悪いことをしようとしていたら、ちゃんとこう言えるだろうか。頭の中では、しっかりと止められている。でも、実際その場になつたら「嫌われてしまうかも」と考えてしまい、言えないかもしれない。中学生が関わった事件や事故のニュースを見るたび、そんなことを思う。

この前も、私と同じくらいの年齢の子たちが、コンビニで電子タバコなどを万引きして捕まったというニュースを見た。「友達に誘われて断れなかつた。」とその子たちは言っていた。そんな言葉を聞いて、私はドキッとした。私も、もしその場にいたら同じように断れなかつたかもしれないと思ったからだ。

私にとって友達は、とても大切な存在だ。一緒に笑い、ふざけ、悩みも聞いてくれる。だからこそ、その友達に嫌われたくない、仲間外れにされたくないから、そういう気持ちはすごく強い。だが、その気持ちに負けて悪いことをしてしまつたら、本当に友達のためになるのだろうか。もし友達と一緒に犯罪をして捕まつたら。私も友達も家族も、みんな悲しむ。きっと友達だって「あのとき止めてくれればよかった」そう思うはずだ。

実は、私は一度だけ似たような場面に出くわしたことがある。遊んでいる時にある友達が「あの駅、人いないから無賃乗車しようかな。」と笑いながら言ったことがある。その時は、冗談だとみんな思い「やめとけよ。」と軽く返して、それで終わつた。でも、もし本気でやろうとしていたら。私はちゃんと止められただろうか。心の中では「やめな」と思っていても口に出すのは怖い。それが私の弱さだ。

ニュースで警察の人が話していた。「誘われても断る勇気をもつこと。止める勇気をもつこと。それが本当の友達です。」私は、その言葉を聞いて自分が大切なことを忘れていたことに気づいた。「嫌われたくない」の気持ちばかりで「友達を守る」ことを考えていなかつたのだ。悪いことを止めるのは、相手を責めることではない。むしろ、その子がこれ以上、間違つた道に進まないようにする一番の優しさだ。もちろん、勇気を出して止めたら、その場では嫌な顔をされるかもしれない。もしかしたら「うざい」と思われるかもしれない。それでも、友達の未来を守るためなら、その一言は絶対に必要だと思う。いつかきっと友達のためになるから。でも、いざというときに勇気を出すことは簡単じやない。だから私は小さなことから練習してみようと思う。

例えば、SNSで誰かを悪く言っているのをみたら「やめようよ。」と言つてみる。「宿題を写させて。」と言われても「自分でやったほうがいいよ。」と返してみる。そうやって、小さなことを積み重ねれば、いつか大きな場面でも言えるようになるはずだ。

そして、普段から自分の考えをはっきりと伝えておく。「悪いことはしない」という自分の線を友達にも知ってもらえば、そもそも誘われなくなるかもしれない。そういう信頼を築ける友達こそ、本当の友達なんだと思う。

私は、これからもし誰かが間違ったことをしようとしたら、まずは落ち着いて話を聞こうと思う。ただ「ダメ」というだけでは、相手は耳を閉ざしてしまうかもしれないからだ。「それをしてしまうとどうなるのか」を一緒に考える。そうすれば相手も冷静になり、自分の行動を考え直してくれるかもしれない。そして、自分一人で止められなければ、先生や大人に相談する勇気も持ちたい。助けを求めるのも立派な防犯だと思う。

思い返せば、小学校の頃に地域の防犯教室で「危ないことに近付かない」「誘われても断る」という約束をしたことがある。その時は、あまり深く考えなかったけれど、中学生になった今、その意味がよく分かるようになった。防犯は、特別な道具がなくてもできる。大事なのは、自分の意志と勇気だ。

今まで「言えるかな」そんな疑問で終わっていたけれど中学校三年生という今、その疑問にちゃんと答えを出そうと思う。これからも悲しい事件がニュースで流れてきて目にするとかもしれない。けれど、そのたびに「自分だったらどうするか」を考えて、そして、自分の答えをしっかりと持っておこうと思う。それが、自分と友達を守るために第一歩。そして、みんながその意識を持つことで日本の中学生の犯罪の数がきっと減ってくれるから。

「ダメだよ。やめよう。」私は、その一言を迷わず言える人間になりたい。たとえ、その場で嫌われてもかまわない。そのたった8文字の言葉で、友達や自分の未来を救える。「あのときは止めてくれてありがとう」未来の自分や友達は、きっとその勇気に感謝してくれるから。